

チェルノブイリ原発事故に寄せて

吉田信 (いわき市内の高校教師・1987年没・享年54歳
「薄明地帯からのメッセージ」所収)

一体何のあやまちだ どうしたと言うのだ
死の灰が降りそそぐ この美しい五月の空から
音もなく においもなく
北ヨーロッパの子供たちや妊婦たちは
あんなに陽ざしが恋しい種族なのに外にも出られず
豊かな牧畜の国々ではミルクも肉も当分おあずけだ

「正確な情報を与えよ」
ワルシャワやストックホルムの市民たち
世界中の人々は耳をそばだてる
生者だけではない
カタコウムのされこうべたち
ヒロシマやナガサキの死者たちも耳をそばだてる
ルルドの聖母像もいぶかしげな視線を
北方に投げる

古都キエフから観光団が今日帰国
百ピコキュリー前後の大した汚染だ
しかし旅行者は立ち去ればよい
死の灰を洗い流して……
ヨゼフやイワン カテリーナたちよ
君たちは充分知らされたのだろうか
君たちの水や食料 土地や空気は安全なのだろうか
ウクライナの穀倉地帯は大丈夫なのか
ほとんどなにも知らせない政府との
あいまいな納得づくで 君たち自身の健康や
生まれて来る子どもたちは本当にだいじょうぶなのか

だがこれは他人事ではない
私たちの電力会社や政府はまたしても
メガホンでふれ回っている
「我が国の原子炉は形式が違うから安全だ」と
メガホンとそれを鵜呑みにする〈沈黙の多数〉
という図式は破られねばならぬ

地獄の釜のふたが飛んだ
一度目はスリーマイル島でおずおずと
二度目はチェルノブイリでかなり派手に
三度目は何処でどんな具合にはじけることだろう

1986. 5. 5

